



子どもの居場所づくり
地域ではくむ

さあ、

子どもたちと ふれあおう!



子どもたちの声に耳を傾けたら 自立の姿が見えてきた!

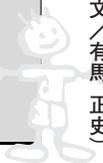
福井県越前市の北日野公民館が、放課後子ども教室を始めたのは2007年7月からだ。当初は、どこでも行われている大人の企画から始まった。それが、子どもたちの自立的な自主企画中心の活動へと変わっていった。その取り組みを紹介する。

(取材・文/有馬 正史)

学校でも家でもできないものを
提供できる空間づくりをしたい

北日野公民館 (福井県)

北日野公民館に入ると、テーブルを囲んで、11人の子どもたちが会議をしていた。6年生4人、5年生7人、全員女の子だ。前方の黒板に、「放課後子ども教室」、さらに、「アンケート統計」



「どんなものを作るか(嫌いな野菜、果物)」「誰にあげるか」と書いてある。会議のテーマは、嫌いな野菜や果物を使ったお菓子やおかずなどを作ることである。6年生の福田茜さんにその理由を聞くと、「私は学校で給食委員ですが、給食の目標が「好き嫌いせず食べよう」なんです。そこで、大人も子どもも、嫌いなものでも工夫するとおいしく食べられるようになると思います、みんなに提案したんです」と話してくれた。事前に、近くの保育園、幼稚園の園児たちの嫌いな野菜、果物のアンケート調査もしており、嫌いなものリストにはピーマン、玉ねぎ、人参などが並んでいた。最終的に、嫌いな果物はレモンで、フルーツゼリーに、嫌いな野菜はなすで、カレーにすることにした。もう1つ、スイートポテトも作る。これは、公民館の裏庭に自分たちで植えたサツマイモが育ったからだ。次に、誰に食べてもらうか。早速、子どもたちは、先生たちに食べてもらおうと、

保育園の園長に、料理を食べてもらう保育士さんの数を聞きに行く



皆の嫌いな食べ物をおいしい料理に変えようと会議をする



保育園、幼稚園と小学校の先生たちの人数を調べに向く。合計47人。園児たちへは断念。予算は5000円。材料を購入し、調理をするという。大人は見守るだけだ。子どもたちが企画し、予算も頭に入れて活動を行う。

このような放課後子ども教室がどうしてできたのか、北日野公民館主事の平野祐子さんに伺うと、「最初は、大人が企画を立てていましたが、子どもたちがあまり集まりませんでした。子どもたちとの会話の中で、『自分たちでしたいんだ』とわかったんです。それならさせてみよう、そのほうが本当の自主自立につながり、自信にもなると思いました。学校でも家でもできないものを提供できる空間づくりをして活動をサポートしていきたいと思っています」と、

子どもたちへの愛情と情熱に溢れた返事が返ってきた。子どもたちは、「仲良し友だち」「お茶っ子」「空色っ子」の3つのグループを作り、メンバーは出入りを繰り返しながら、時には口論もしながら、お料理教室、クリスマス会、お茶会に出す和菓子作り、新年会、写生大会など、次々に企画しているという。子どもたちの企画に、児童や親子連れ、地域の方などが大勢参加してくれるのだという。

6年生の古木祥子さん、笠島沙紀さん、田辺佳純さんは、「企画は難しい。予算も考えなくてはいけない。でもそれを悩むのが楽しい」「私たちが卒業したら、今の5年生に引き継いでもらいたい。卒業してもまた参加したい」「学校ではできない体験ができ、自分で企画するのは楽しい」とそれぞれ話してくれた。

遊びに限らず、子どもたちがしたいことは何か、大人はもっと耳を傾け、子どもたちと向かい合うと、本来子どもたちが持つ豊かな才能に気づくのだと確信した。

